「都市型地域循環型社会」に向けて

先日、Ｕターンして農業を営む友人Ｋ氏が上京し、食事しながら現場の情報も含めて話を伺った。その中で「我々は牛を食べているが、牛１頭から肉として食べている割合は何％か」との質問を受けた。うーんと唸って、「50％ぐらいか」と答えたのであるが正解は42％。生体重量７００kgの牛を処理すると、肉として利用できるのは２９０kgにとどまり、４１０kg、58％と６割近い部分が廃棄されかねないことになる▼Ｋ氏は全国連で活躍し、畜産問題にも精通するプロフェッショナルである。Ｋ氏が質問を投げかけてきた意図は、この58％部分の有効活用を不可欠とする〝もう一つの畜産問題〟の存在を認識させるところにある▼58％部分を「副産物」として活用すべく、様々な研究・トライアルが重ねられ、現在、食用油脂、ラーメンスープ、マーガリン、ゼラチン等の食品、ペットフード、接着剤、フィルム、石鹸等の生活用品、内服用カプセル、コラーゲン等の医薬品等に利用されてきている。副産物を牛の生産とバランスさせながら、膨らませていくことが求められているわけだ。その一つに皮革もあるが、統計上、加工品に分類され、農林水産物輸出としてはカウントされていないが、輸出額は１００億円を上回るという▼今、循環型社会を目指して、太陽光発電等によるエネルギーの自給化や、生ごみのたい肥化と都市農業との連結等が推進されているが、これらに加えて畜産副産物を生活に必要な製品に再生していく「レンダリング」事業を産業として自立化させていくことも、きわめて重要な取組みということになる。家畜が生きている間、その命を尊重していくアニマルウェルフェアも重要であるが、レンダリングもこれに劣らず重要であり、循環型社会の柱の一つとすべく受け止めていきたい。

（土着菌）